

【特徴】

1. 急性疾患から慢性疾患、良性疾患から悪性疾患にいたる幅広い呼吸器科領域を専門医として市中病院ならではの十分な臨床経験を積むことができる。
2. 大阪市内に存在する公的機関として唯一の結核病棟をもつ医療機関である特徴を活かし、結核診療の基礎のみならず、都市型伝染病としての大阪市の結核医療の位置づけと市としての対策を学習できる。

【研修目標】

1. 一般目標
 - (ア)地域医療の担い手たる市中の市民病院内科の呼吸器分野を担当する医師としての役割の自覚と技量を習得するために、出来る限り多くの症例を経験する。
 - (イ)呼吸器学の学習機会を定期的勉強会で与え、新しい知識の習得と、学会発表等を通じて新しい呼吸器科医療の知見を世に発信していける、将来取得するであろう呼吸器科学会認定専門医の素養を身につける。
2. 行動目標
 - (1) COPD、気管支喘息、市中肺炎、院内肺炎のガイドラインに従った診断と治療が行える。
 - (2) 肺癌などの呼吸器悪性腫瘍の診断、臨床病期分類とそれに応じた治療戦略を立案できる。
 - (3) 呼吸器悪性腫瘍の化学療法の手順を理解し安全に実践できる。
 - (4) 睡眠時無呼吸症候群をスクリーニング、診断し治療に導入できる。
 - (5) 結核患者の感染予防を理解し、適切な治療及び感染症法に基づいた公的書類提出などの法的業務が行える。
 - (6) 標準指導法に基づいた禁煙外来を習得し実践できる。
 - (7) 石綿肺患者など職業性疾患を管理し労災手続などを行える。
 - (8) 呼吸リハビリテーションを含む呼吸理学療法を行い、患者指導、スタッフ指導を行える。
 - (9) 外来診療における呼吸器疾患の初療が出来る。
 - (10) びまん性肺疾患の診断と治療が出来る。
 - (11) 緩和医療を理解し実践できる。

【方略】

入院患者を主治医として担当(技量に不足がある場合は指導医との共観)、症例検討を通じての難治症例、希少症例経験の共有

各種検査手技、診療手技の現地学習

- 呼吸器科カンファレンス、週1回
- 学会発表（呼吸器学会、内科学会、呼吸器内視鏡学会など地方会を含めいずれかの学会で少なくとも年に1回は発表の機会を与える。）

【評価】

上記の行動目標について自己評価を行い、かつ指導医からの評価を受ける。

【研修プログラム】

レジデント1年目～3年目

一般臨床	臨床手技 呼吸管理	内視鏡	発表会
COPD、気管支喘息、市中肺炎、院内肺炎のガイドラインに従った診断治療 肺癌化学療法の理解と実践 睡眠時無呼吸の診断、治療の理解 結核診療の理解習熟	胸水穿刺、胸膜生検、胸腔ドレナージの習得 人工呼吸器の各モードの理解 NIP、CPAPを使いこなせる	前処置や補助者の役割の理解 指導医と共に気管支鏡を術者として実際に行う	内科学会地方会 呼吸器学会地方会 結核病学会地方会呼吸器内視鏡学会地方会のいずれかで発表

シニアレジデント1年目～3年目

一般臨床	臨床手技 呼吸管理	内視鏡	発表会
禁煙外来の習得 石綿肺患者など職業性疾患の労災手続などの理解 呼吸リハビリテーションの習得 外来治療における呼吸器疾患の初療の習得 合併症を持った結核患者の管理 びまん性肺疾患の診断と治療 呼吸器身体障害認定の習得 緩和医療の理解と実践 外来診療における呼吸器疾患の慢性管理	人工呼吸離脱のマネジメント 気管切開	咯血症例呼吸不全症例の気管支鏡検査のリスクマネジメントの習得	内科学会地方会 呼吸器学会地方会 結核病学会地方会呼吸器内視鏡学会地方会のいずれかで発表 後進の発表の指導

【見学等問い合わせ先】

呼吸器内科部長 白石 訓